

災害時に備えたペットの安全対策

平成23年3月11日に発生した東日本大震災、それに引き続き起きた原子力発電所の事故により、多くの方が避難しました。その際、大切に飼っていたペットを残して避難をしなければならなかった飼い主さんがたくさんいました。飼い主さんと再会できたペットもいましたが、残念ながら、飼い主さんがわからないケースもありました。



その時になって慌てないように、平常時からペットのためにできることを考え、ペットと同行避難できるように備えておきましょう。

(1) 普段の暮らしの中での防災対策

災害時にペットを守るためには、ペットが普段いる場所に配慮することでペットの安全につながります。

室内飼いの場合、家具の固定等地震対策を行いましょう。屋外で飼っている犬の場合、ブロック塀やガラス窓、倒れやすい建物等、飼育場所の周囲に壊れるおそれのあるものがないか確認しましょう。また、首輪や鎖が外れたり切れたりして逃げ出さないよう点検をしましょう。

(2) ペットのしつけと健康管理

人とペットが安全に避難するためには、普段からキャリーバックなどに入ることを嫌がらないように日頃から慣らしてしておきましょう。

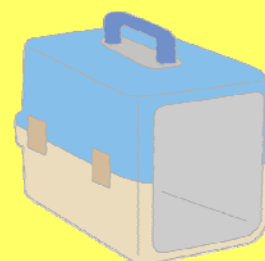
避難場所などでは、飼育場所が限られ、ほかの動物と一緒に過ごすスペースで過ごしたり、ほかの動物との接触が多くなる可能性があるため、感染症などの予防のため、日頃からワクチン接種などペットの健康管理をしましょう。

災害に備えたしつけと健康管理（例）



犬の場合

- 「待て」「おすわり」「おいで」など基本的なしつけを行う
- ケージ等に入ることを嫌がらないように、日頃から慣らしておく
- 不必要に吠えないようにする（人やほかの動物を怖がる、攻撃的になるなど）
- 狂犬病予防ワクチンなど各種ワクチンを接種する
- フィラリア症など内部、外部寄生虫の予防、駆除を行う
- 不妊・去勢手術を行う



猫の場合

- ケージ等に入ることを嫌がらないように、日頃から慣らしておく
- 人やほかの動物を怖がらない
- 各種ワクチン接種を行う
- 内部、外部寄生虫の予防、駆除を行う
- 不妊・去勢手術を行う



(3) ペットが迷子にならないための対策

災害発生時には、やむを得ずペットを残して避難したり、ペットとはぐれてしまうことも考えられます。被災地でペットが保護されたときに、飼い主さんの元に戻れるように、飼い主さんの連絡先がわかるようにしておきましょう。

首輪などに装着するもの（例）

鑑札



注射済票



犬の場合

- 鑑札，狂犬病予防注射済票
- 迷子札
- マイクロチップ

猫の場合

- 迷子札
- マイクロチップ

迷子札



マイクロチップ
環境省 HP より




(3) ペット用の避難用品や備蓄品

避難先でペットの飼育に必要なものは、基本的には飼い主さんが用意しましょう。


備蓄品には、優先順位を付けて、優先度の高いものは避難時にすぐに持ち出せるようにしておきましょう。

ペットを避難させるために必要な避難用品（例）




犬の場合

- 首輪とリード
- キャリーバック





猫の場合

- キャリーバックやケージ



ペットの備蓄品（例）

- フード，水（少なくとも5日分。できれば7日分以上が望ましい。）
- 療法食，薬
- ペットシート，猫の場合はトイレ砂，排泄物の処理用具（袋等）
- 食器
- 予備の首輪，リード
- ペットの健康管理がわかるもの
（ワクチン接種履歴，既往症，かかりつけの動物病院の情報など）

連絡先

宇都宮市保健所 生活衛生課環境衛生グループ

TEL：028-626-1108

